

Phoenix Club

PHOENIX VIEW
SCENE 映す、風景



留学生と日本人学生が交流する『International Cafe』。週1回開かれており、海外に関心を持つ学生は誰でも自由に参加できる。



贈る言葉

先輩から

人に会おう。

目標を見つけた

私、自慢できる学生ではなかったんですよ。なんとなく毎日を過ごして、大学の授業に仕方なく出るくらいで、勉強もサークルも、あまり真剣には取り組めていませんでした。学生生活をどう楽しめばいいのか、よく分かっていなかったんです。

今思うと、なんて、もったいないことをしたんでしょうね。

変わったのは、3年生の終わり。所属していた憲法ゼミの畑博行先生が、広島弁護士会との共同研修企画でハワイ大学に連れて行ってくださったからです。そこで初めて、実物の「弁護士」に会ったんです。もちろん弁護士という職業は知っていましたが、リアルな弁護士に接するのは初めて。その時に「弁護士になる」という目標ができました。

司法試験合格をめざして、それからは一生懸命勉強しました。嫌々ながらも授業をきちんと受けていたことが試験勉強の大切な基礎になりました。

「就職難」を越えて

26歳で司法試験に合格しましたが、当時は女性弁護士の就職はなかなか楽ではなかったんですよ。お願いして、なんとか、修習生のとき指導してくださった先生のとこ

ろで働かせてもらうことになりました。

エートス法律事務所の吉井昭先生とは、弁護士仲間と食事に行った店で知り合ったんですよ。いろいろな話をうかがい、時々仕事をお手伝いしているうちに、「この先生と仕事がしたい」と思うようになって、押しかけ就職しました。

人と話すと世界が広がる

吉井先生との出会いのように、人と話すことは人生を広げます。

弁護士は人と話すのが仕事でしょう。以前は人に会うのが苦手でしたが、仕事でいろいろな人と接するうちに、自分の視野がどんどん広がっていくことが実感できて、人と話す楽しさが分かってきました。

今では、大学時代に、もつと人と話して友だちをつくっておけばよかったと思います。学内だけでなく学外の人たちとも。

広大……特に法学部は、先生と学生の距離がとても近いですよね。先生にもどんどん話しかけていけばいい。そこから新しい展開があるかもしれない。私が、弁護士という道を見つけようとして仕事ができているのも、人との出会いがあったからです。

先生でも友だちでも、いろんな人といっぱい話をして、自分の可能性を広げていってください。



檜山 洋子さん
弁護士・ニューヨーク州弁護士

1993(平成5)年広島大学法学部法学科卒業、1997(平成9)年広島大学大学院社会科学部法律学専攻修了後、司法試験合格。第52期修習生として2年間の司法修習の後、大阪弁護士会に登録。その後も神戸大学専門職大学院MBAコース、米国留学、ニューヨーク州弁護士登録と、キャリアを積み重ねている。エートス法律事務所パートナー。留学時代に知り合った米国人と日本で結婚、40歳で一女の母に。「ほんとに可愛いですねえ」と、表情が崩れる。

第5回 広島大学 ホームカミングデー 報告

平成23年11月5日(土) 広島大学 東広島キャンパス



ホームカミングデー5回目にして、初めての雨の土曜日。それにもかかわらず、東広島キャンパスだけでも3,500人以上の皆さんが参加してくださいました。

お知らせ
第6回 広島大学 ホームカミングデー
 平成24年11月3日(土・祝)
 広島大学 東広島キャンパス



サタケメモリアルホールでのオープニングはオリジナル編曲の『故郷』で幕を開けました。広島大学3合唱団の現役生・卒業生による感動的なコーラスに大きな拍手がわきました。

講演会 北川正恭氏



元三重県知事で早稲田大学大学院教授の北川正恭氏の学術講演。『依存から自立へ』と難しそうな演題に身構えた人もありましたが、非常に分かりやすく、日本や広島県が直面している課題と、それに取り組む心構えを語ってくださいました。



学長フォーラム

今回初めての企画として、浅原利正学長と司会の西名みずほさん(文学部卒・広島テレビ放送アナウンサー)のトークによる『学長フォーラム』を開催。「広大の今日と明日」をプレゼンテーションしました。

講演会 三浦雄一郎氏

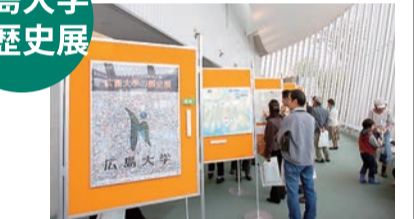


文化講演会は、70歳を過ぎてエベレスト世界最高年齢登頂記録を樹立するなど、精力的な活動を続けておられるアドベンチャー・スキーヤー、三浦雄一郎氏。登頂の様子を記録した映像とパワフルな語り口で、聴く人を魅了しました。

学生ステージ



広島大学の歴史展



ホームカミングデー恒例の写真展。大きく見やすくなったパネルに見入る卒業生は例年より増えて多く見られました。



ホールの外では、降りすぎる雨の中、在学生たちがさまざまなおもてなし企画を展開。



「My Best 授業紹介コンテスト」は、在学生が、受講した授業の中から他の学生に勧めたいと思う授業を文章で表現し伝えるという新しい試みで、この日、人材育成推進室 (FD 部会) から優秀賞が表彰されました。

HCD学生スタッフ



懇親会



今回の懇親会には三浦雄一郎氏も参加してくださいまして、盛り上がりしました。ホームカミングデーを支えてくれたHCD学生チームメンバーや職員なども参加して大先輩たちと談笑。ホームカミングデーは「卒業生と在学生の交流の場」でもあります。



広島風お好み焼きの販売や、卒業生・在学生の写真を撮影して大きな『手つなぎ写真』を作る企画など、学生チームのおもてなし企画も年々充実しています。雨の中で奮闘する学生たちの姿に心を打たれた卒業生も多かったのではないのでしょうか。



学部・研究科 会場企画

総合科学部・総合科学研究科

佐竹明名誉教授
日本学士院第101回恩賜賞・日本学士院賞受賞記念講演会・祝賀会

賞記念祝賀会



文学部・文学研究科



世界とふれあう語学カフェ

教育学部・教育学研究科



演奏会

生物生産学部・生物圏科学研究科



食料・環境問題国際シンポジウム

理学部・理学研究科

化学科研究報告会および親睦会
 生物科学同窓会
 地球惑星システム学専攻・学科
 同窓会「六水会」
 地球惑星システム学専攻
 ホームカミングシンポジウム



国際協力研究科



講演とワークショップ

医学部・歯学部・薬学部・医歯薬学総合研究科・保健学研究科



辛坊治郎氏講演会
「テレビ報道のウラ・オモテ」

法学部・経済学部・社会科学研究科

法学部・経済学部・社会科学研究科
合同講演会及び懇親会

先端物質科学研究科

研究室公開と講演会、
パネルディスカッション、懇談会

毎日新聞論説室専門編集委員

玉木 研二さん（1975年 政経学部卒業）

失敗が人間の基礎体力をつくる。

毎日新聞には、曜日ごとに「火論」「水説」「木語」「金言」と名づけられた署名入りのコラムがあります。署名どころか似顔絵まで入って、発信者の「パーソナリティ」を前面に出した記事です。「火論」を担当しているのが玉木研二さん。教育や映画など得意なジャンルを中心に、週一回、独自の視点で持論を展開しています。

狭くて暗い。でも、活気があった。

私が記憶している広島大学は、昭和40年代後半の、千田町の古い校舎です。政経学部法律政治学科の学生でした。

当時、まだ若い講師だった五百旗頭（いおきべ）真先生の授業が面白かったことをよく覚えています。「日本政治思想史」かなんかだったと思います。

当時の広大は、あちこちに分散した「たこ足キャンパス」でした。昔のことですから、校舎は狭くて暗かったし、周辺も喫茶店や食堂、麻雀屋などが入り交じって、学生街特有のわい雑さに包まれていた。でも、とにかく活気だけはありました。大学の姿として、あの当時の広大はよかったです。懐かしいですね。

記者としての土壌。

若い学生が集まる大学は、都会のじん埃の中でこそ活気つくというのが、私の持論です。時代の変化で、仕方ないことはわかっているのですが。

子どもの頃、テレビで『事件記者』というドラマが人気でした。それで、私も新聞記者になりたいと思った。単純ですね。

しかし、実際の新聞記者はドラマみたいなカッコイイものじゃありませんよ。『事件記者』は30分で事件が解決するけど、実際の事件はそうはいきません。解決するまでは夜回り朝駆けも当たり前。なまなましい事件の現場や、ドロドロした人間関係など、見なくてもいいものも見なくてはなりません。



玉木さんが執筆する毎日新聞のコラム。「火論」は全国版に、「そして名画があった」は東京版、「肉声再生」は東京夕刊に掲載されている。いずれも、ウェブでも読むことができる。<http://mainichi.jp/>

■玉木研二さんプロフィール■
1951年広島市生まれ。広島観音高校から広島大学政経学部へ。1975年毎日新聞社に入社。大分支局の“サツ回り”からスタートして九州、首都圏で報道畑一筋。現在、朝刊『火論』をはじめ、毎日新聞各紙のコラムを執筆。



社会人としての土壌。

駆け出しの頃は、「文章は手で覚えろ」と言われて、先輩の記事を書き写したものです。私はもともと文章を書くことが好きで、高校時代に、自分なりに太宰治や梶井基次郎の文章を書き写していたので、抵抗はありませんでした。政経学部ではなく本当は文学部に進んだ方がよかったです。

実際、新聞記者になるのに、学生時代の学部や専攻などは関係ありません。でも、新聞はしっかり読んでほしい（笑）。これは、社会人になる人すべてに言いたいことです。新聞がいいのは「ななめ読み」できるところ。目的の記事を読むついでに隣の記事に目がいつ、知識や情報を蓄積できるでしょう。

英語は必須条件。

最近「目的を絞って効率的に」というのが主流で、ななめ読みして寄り道することの価値が忘れられているような気がします。

寄り道や失敗、それに伴う苦しい出——そうしたものが、土壌を肥やし、人間の基礎体力をつくります。この基礎体力が、多様な価値観が切磋琢磨する社会を生き抜くためには、必要ではないでしょうか。これは新聞記者に限ったことではありませんよ。

広島カープを何とかしてください。

昨年の震災と原子力発電所事故の後、広大は「広島大学」として、国際的なメッセージを発する使命があると、私は考えています。キャンパスは東広島に移転しても、広大は広島県で唯一の国立大学なので、広大は広島県からもう一つ、広島東洋カープをなんとかしてください（笑）。いや、私は真面目ですよ。カープが初優勝した昭和50年代の初めには、広大の保健の先生が選手の家族を集めて栄養指導をしたという話も聞きました。大学として、地元の球団をサポートする方法はあるんじゃないでしょうか。ぜひ、広島カープの再生に、力を貸してください。



インタビューの後、玉木さんが社内を案内してくださいました。ここでは「論説室」。スクラップブックなどの資料がびっしりと並んでいます。ここで、編集委員の皆さんがコラムなどを執筆しておられます。ちょうどこの時間は、翌日の朝刊に向けての執筆時間でした。

OPERATIONつながり



広がるボランティアの輪

東日本大震災以降、多くの人が「何か自分ができることはないか」と考えたのではないのでしょうか。そういう個人の思いを一つに繋げようと立ち上がった学生たち、それが「OPERATIONつながり」です。当初は5人だったメンバーも、賛同する学生がどんどん集まり、今では40人以上（日に日に増えて把握しきれないとか！）。震災部も発足しました。それぞれが企画、広報、総務などに分かれ、組織的に活動しています。

被災地での経験が成長のきっかけに

メンバーは交替で被災地を訪問。仮設住宅で交流会を開き、被災した人々を精神的にサポート。今年度内に4回、次年度からも継続的に訪問していく予定です。

「学生は時間を作ることができるので、今の自分たちにしかできないことだと思っています」と教育学部1年生の鬼村さん。

「想像を絶するつらい経験をした被災者に何ができるのか」と悩みながらも、毎日の反省会で、その日の発見や経験を話し合いながら、試行錯誤を続けています。

この活動は、学生自身にとっても大きな成長機会となっているようです。

最初の一歩「まずは知る」と

広島で学生生活を送っているだけでは決して見聞きすることのない「現実」を目の当たりにした彼女たち。「まずは知ってほしい。そして、忘れないでほしい」と、ホームページでレポートを公開し、報告会やワークショップを開くなど、積極的に外部との交流を進めています。被災地の東北大学、山形大学のボランティア団体との連携も強化していく予定です。

▼「OPERATIONつながり」の活動はHPをご覧ください。
<http://trip6qlbz/~trip/sunagari/>

話題の広大【留学】

広島大学発のトピックを、ちょっとくわしく。
今回は「留学」をテーマにご紹介します。

入学したら留学しよう

話題の「STARTプログラム」は5万円で留学

「5万円で留学できるプログラムを広島大がスタート」と、話題になったのが「START(スタート)プログラム」。時間的に余裕のある1年生のうちに、できるだけ多くの学生に海外の大学を体験させたいと、広島大学基金から費用のかなりの部分を補助し、留学への入り口を広くしたユニークなプログラムです。

初年度の2010(平成22)年度には2回で44名、2年目の今年度は3回で83名が参加しました。約2~3倍の応募者の中から、面接などの審査によって参加者が絞り込まれます。

事前学習、事後研修への参加を必須とし、約2週間、海外協定校で現地教員による授業や学生交流を行います。プログラムの趣旨に賛同してくださった海外協定校の多大なる協力により、非常に満足度の高い、充実したプログラムになっています。

本格留学を目指すなら

HUSA 交換留学プログラム

広島大学と海外の協定大学との交換留学制度。春と夏のショートプログラムも含め、2011年度は34名の学生が10カ国に留学しました。

異なる文化の中で半年~1年過ごすのは楽しく、刺激も学びも多い一方で、勉強の大変さや慣れない環境で壁に突き当たる経験もするはず。しかし、それを乗り越えて帰国した学生たちの成長ぶりもまた、目を見張るものがあります。



◆広島大学の留学制度

STARTプログラム(長期休暇中2週間程度)

学部1年生だけが参加できるプログラム。留学先はオセアニア、米国、東南アジアなど。

語学研修プログラム(1カ月程度)

イギリス、アメリカ(ハワイ)、ドイツ(ハンブルグ)、中国(北京)などで学ぶ語学研修。

HUSA 交換留学プログラム(6カ月~1年間)

世界60以上の協定大学に留学。留学先大学での授業料は不要(広島大学の授業料は必要)。留学中に取得した単位は広島大学の単位として認定することができる。

INU 修士ダブルディグリープログラム(1年程度)

大学院生(教育学・社会科学・国際協力研究科)が対象。「地球市民と平和」に関する分野で、広島大学と海外の大学、2つの学位を取得できる。

この他、開発途上国の現場を体験する国際協力特定プログラム、海外インターンシップなど、海外を経験できるプログラムが豊富に用意されています。

また、学部・研究科が派遣する留学プログラムもあります。

留学情報 <https://momiji.hiroshima-u.ac.jp/momiji-top/learning/study-abroad.html>

キャンパスで異文化体験、語学力アップ 学内交流プログラム

広島大学では、現在、64の国・地域から来た1,000人余りの留学生が学んでいます。これらの留学生と、キャンパスに居ながら国際交流できます。

●学生チューター

新入留学生に、日本人学生の「チューター」がマンツーマンで生活・学習のサポートを行う制度。日本人学生にとっても、留学生を通して語学や文化を吸収できる絶好の機会となります。

●会話パートナー

留学生と日本人学生が互いに練習相手になり、話し合いながら語学力の向上を目指します。

●留学生との議論・会話

留学生と日本人学生が集まって議論をしたり、昼食を食べながら会話をしたり、各国の料理を作って食べたり——学内で交流を深めるイベントも多数用意されています。

国際交流活動 <https://momiji.hiroshima-u.ac.jp/momiji-top/life/kokusai/kouryu.html>

学生主催の「International Cafe」は 誰でも参加自由、おしゃべり自由

週1回、学生プラザで留学生と日本人学生が自由に会話を楽しまつ集まり。STARTプログラムでオーストラリア留学を体験した本田秀一さん(文学部)が中心となって開催しています。留学経験者はもちろん、これから留学したいと考えている学生、語学力アップを目指す学生、友だちを増やしたい日本人学生や留学生など、毎週必ず20~30人が参加する人気のイベントとなっています。



広島大学アクセシビリティセンター長、佐野(藤田)眞理子教授。米国で12年間、文化人類学を研究してきた。「アメリカの大学では人種も年齢も障がいの状態も、いろいろな人がいるのが当たり前の風景でした」

誰もが生活しやすいシステムでは「アクセシビリティ」とは？この質問に、佐野教授はこう答えます。

企業で求められる視点「アクセシビリティ」という言葉が、社会で重要視されてきたことを、就職活動で再確認したんですよ」と、アクセシビリティセンター長の佐野教授。例えば、メーカーでは「誰でも使いやすい製品開発の視点」、流通業では「高齢者や働く女性をサポートする視点」などが評価され、厳しい就職戦線を取り組んできました。

ユニバーサルキャンパス 外国人留学生や社会人、障がいのある人、さまざまな人が集まる大学キャンパス。その中で、多様なニーズの特性を理解し、「支援する側」と「支援される側」といった固定化された役割ではなく、お互いのできる場所でサポートしあい、それぞれの得意分野で能力を提供し合うという、ユニバーサルキャンパスが広島大学で実現し、ユニバーサル化が進む社会と共鳴し合う——それは、大学の一つの理想型といえるでしょう。

2006(平成18)年に開始した「アクセシビリティリーダー育成プログラム」は、「教育課程」「資格認定」「インターンシップ」「キャンプ」で構成される総合的な人材育成・活用プログラムで、学生たちは、学部を問わず参加し、すでに200名近いリーダーを輩出しています。2009(平成21)年には、アクセシビリティリーダー育成協議会を設立し、広島大学で開発したプログラムの全国展開を行っています。

ZOOM

広島大学 アクセシビリティセンター

学部を超えて
多様化が進む社会の
リーダーシップをとる人材を育成

読み上げた言葉を文字にしたり点訳したりといったサポート活動にパソコンソフトを活用しています。

お礼

この1年、多くの皆さまからご寄付をいただきました。ありがとうございました。

『Phoenix Club』Vol.11
平成24(2012)年2月24日発行
(年2回発行予定)

編集・発行: 広島大学校友会事務局
〒739-8514 東広島市鏡山一丁目7番1号
学生プラザ2階
TEL&FAX (082) 424-6015
8:30~17:00(土・日・祝を除く)

E-mail ● sec@phoenix.hirodai.jp
Webサイト ● <http://www.hiroshima-u.ac.jp/koyukai/>

後輩から

私の周りには、素晴らしい仲間たちがいます。——こつこつ毎日勉強を真面目にするのもあり、仲間と刺激し合い切磋琢磨するもよし。友達と存分にはしゃいで遊びまくるのもあり。「今」がきつと未来につながるから。——こんな学生生活を送りたいと思います。(総合科学部1年 松本)

先輩インタビューを終えて

◆これまで取材してこられた事件のお話などを聞いて驚きました。私には想像もつかなかった経験をしてこられたんですね。「文章を書くときは今まで生きてきた経験がすべて活きてくる」という言葉が特に心に残りました。残りの学生生活を無為に過ごすことなく、貪欲に色々なことにチャレンジし続けて、自分の土壌を肥やしたいと思います。(経済学部2年 富家)

◆「人がするからやらなきゃ」と焦るのではなく、自分を貫いて、玉木さんはおっしゃいました。「自分が本当にしたいことは何か」を、誰のためでもなく自分のために、もっと真剣に考えたいと強く感じました。

また、「これからの社会では語学が必須になる」とおっしゃっていました。日々の勉強に力を入れていきたいと思っています。(経済学部2年 木本)

表紙「贈る言葉」取材を終えて

◆お会いしたときはカッコいいキャリアウーマンという印象でしたが、お話をすると、雲間気がとてもやわらかくて意外でした。アメリカ人のご主人とお子さんの幸せも楽しんでおられるからでしょうか。

◆ 榎山さんは、学生時代に積極的に人と関わらなかつたことを残念だとおっしゃいました。人と関わること、仲間がいることの大切さを、ご自分の経験から話してくださいました。